

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名: 言語文化研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		共通に実施する言語教育に関連する教育プログラムを企画、運営及び実施するとともに、言語教育の質の向上及び社会に求められる人材を育成する機能の強化を図ることを目的としたマルチリンガル教育センターの設置を決定したことが評価できる。 また、マルチリンガル・エキスパート養成プログラムにおいて、新たに英語英米文化学プログラムを開始し、またスペイン語スペイン文化学プログラムおよび大学院プログラム開設準備を整えるなど、同プログラムをさらに充実させたことも評価できる。
【研究】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		「マルチリンガル教育センター」の設置に向け、平成31年度概算要求プロジェクト案「「キャンパスライフ一貫型」言語教育によるグローバルプレゼンスの確立」を策定し、アウトバウンド/インバウンドの留学生数を増加させるための具体案を提示したことが評価できる。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		新箕面キャンパスの教育研究棟3・4階について、ダイキン工業株式会社との共創協力関係を前提として、スマートキャンパスの具体的なあり方について構想を取りまとめたことが評価できる。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

外国大学との国際共同学位プログラム数について、マヒドン大学(タイ)教養学部との交渉を意欲的に行い、締結に至ったことが高く評価できる。

また、クロス・アポイントメント実施件数については、女性教員の割合や外国籍教員の割合を意識した積極的な取組により、実績を大きく向上させたことが評価できる。